



東地中海地域ニュース

イラン情勢(21)：ハーメネイー師、改革派に歩み寄り混乱收拾目指す

研究員 山崎 和美

最高指導者ハーメネイー師は、悪名高きエヴィーン刑務所の閉鎖を命じ、140人が釈放された。ハーメネイー師が改革派に歩み寄る姿勢を見せた形だ。

本来、中立な立場で、仲介者となるべき最高指導者は、早々とアフマディーネジャード大統領支持を表明した。しかし、人事の問題などをめぐって同大統領との間の対立も生まれ、保守強硬派内の亀裂も深刻である。ハーメネイー師は、国内の混乱を收拾し、8月5日の大統領就任式に向けての環境を整えることを目指したようだ。(8月29日 NHK、独 ZDF、アルジャジーラ放送)

一方、多数の死者を出した先月20日の抗議デモから40日目にあたる日に追悼集会を行いたいとする改革派の許可申請は却下された。

ハーメネイー師：デモ参加者の拘束施設閉鎖命令(28日付時事通信)

28日、ジャリーリー最高安全保障委員会事務局長は、先月の大統領選後に発生したデモの参加者らが多数拘束されている問題で、最高指導者ハーメネイー師が「必要な基準に達していない拘束施設」の閉鎖を命じたことを明らかにした。国営メディアが伝えた。当局は最大約2000人のデモ参加者を拘束。現在も300人前後が収監。拘束中にデモ参加者2人が死亡。

抗議デモ拘束者140人を釈放(29日付産経新聞)

イラン学生通信は28日、6月の大統領選後の改革派デモで拘束されたデモ参加者のうち140人がテヘラン市内のエヴィーン刑務所から釈放されたと報じた。依然、「政治活動家、反革命分子、外国人ら50人」を含む計200人が収監されているという。検察側は「反政府暴動の首謀者ら」を近く起訴するとしている。

内務省が改革派からの追悼集会申請を却下(28日付産経新聞)

内務省は28日、6月の大統領選後の抗議行動で死亡した市民の追悼集会を30日に行いたいとしていた改革派のムーサヴィー元首相とキャッルービー元国会議長からの集会許可の申請を却下したと発表した。内務省は「選挙での負けを認めず、法に従わない個人や集団」に許可は出せないとしている。ファールス通信が伝えた。